

第8回移動等円滑化評価会議四国分科会

○日 時：令和8年8月7日（金）14：00～16：00

○場 所：高松サンポート合同庁舎 低層棟2階 アイホール

○開催方法：対面・オンライン併用

1. 開会

2. 開会挨拶 【四国運輸局 坂野交通政策部長】

3. 議題

① 四国における移動等円滑化の進展状況・基本構想の作成状況等について

※事務局より「資料2：四国における移動等円滑化の進展状況、基本構想作成状況」に基づき四国のバリアフリー化の進展状況及びバリアフリー法に基づく基本方針における第4次目標について説明。

② ハード・ソフト取組計画の作成状況等について

※事務局より「資料3：ハード・ソフト取組計画の公表状況」に基づき説明。

③ 事業者、団体、自治体、地方整備局、運輸局等の主な取組について

※事業者より「資料4：事業者、団体、自治体等の取組」に基づき以下の順にて説明。

1. 「車いす避難サポーター養成講座の取り組みについて」

柳澤 幸夫 氏（徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科教授）

2. 「バリアフリーマップ「Razomap」の取り組みについて」

鎌田 千記理 さん

3. 「JR 四国のバリアフリーに関する取組について」

四国旅客鉄道株式会社お客様サービス推進室

4. 「NPO法人福祉住環境ネットワークこうちのUD・バリアフリーに関する取組について」

NPO法人福祉住環境ネットワークこうち

※四国地方整備局より

「資料5-1：四国地方整備局におけるバリアフリーの取組」

「資料5-2：国土交通省における建築物バリアフリー化の取組」に基づき説明。

※四国運輸局より「資料6：四国運輸局におけるバリアフリーの取組」に基づき説明。

④ 意見交換

<資料7 意見・要望等の内容及び回答・方針>

【藤澤分科会長】

それではただいまより議題4の意見交換に移らせていただきます。事業者、団体、鎌田さまの取組に関することや「資料7 意見・要望等の内容及び回答・方針」の回答につきまして、ご質問をいただければと思います。Webでご参加いただいております委員の皆様は音声の方は大丈夫でしょうか。何かございましたら挙手ボタンにてお知らせください。

意見・要望書を提出されていた浅見委員、回答の内容についてご意見等ございますか。

【公益財団法人 香川県視覚障害者福祉協会 浅見委員】

ご回答いただきありがとうございます。今回2点要望を提出させていただきました。

2点目について、JR四国さんには一昨年度から同じ要望を提出しているところで、列車の駅到着時に左右どちらのドアが開くのか、機械では表示されていて、音声では「全てのドアがご利用できます」という案内がされますが、左右どちらのドアが開くかわからないのでこれを音声で案内していただきたいという件です。現在は表示で案内されていても、見えない人には右か左かが分かりません。そのため、駅到着時に運転士から一言案内していただきたいという要望を昨年、四国の4団体連名で提出しました。

普段利用する列車であれば左右を把握していますが、高松へ出かけた際などは帰りの時間が一定ではないため、この列車ではどちらのドアが開くのか悩むことがあります。回答の中では不自由な方が乗車している場合に声掛けをするとの回答は昨年も今年も同じでしたが、不可能なことではないと思っています。この件については回答がないまま終了したと感じています。

もう1点は、遮断機に関してですが、視覚障害者団体の全国大会でも同様に要望しております。2年ほど前、整備局で設置したものを利用した際、さらにゴムチップを追加していただいたことで非常に分かりやすくなりました。私は高松に住んでいないため普段利用するわけではありませんが、もし利用するのであれば大変助かると感じました。一方で、私が普段利用している本山駅近辺の踏切には、そのような設備がありません。踏切前に目印もなく、交差点がそのまま踏切につながっています。ダイヤを覚えて特急が来るかを把握して、時計を気にしながら歩いていますが、最近は天候などの影響で遅延が多く、自分が想定した時間に列車が来ないことがあります。行くべきかどうか迷うこともあり、安全面で不安があります。ゴムチップがあれば現在地が確認でき、安心して移動できます。この件について丁寧な回答をいただきました。

今回の回答に対する私の感想は以上です。

【四国旅客鉄道株式会社 お客様サービス推進室】

ご意見ありがとうございます。ワンマン列車の件につきましては、停車時間に余裕があればお声掛けするように指導しておりますが、全てに対応できていない現状があると認識しています。

一方で、ご意見をいただいたことを受け、新入社員研修をはじめ、車掌、運転士、現場管理者向け研修などで、視覚障害や聴覚障害のあるお客様がどのようなお気持ちで列車を利用されているのか、どのような情報を必要としているのかを理解してもらう取り組みを始めております。まだ十分に浸透しているとは言えない状況かと思いますが、ご満足いただける回答ではありませんが、そのような取り組みを進めております。

【公益財団法人 香川県視覚障害者福祉協会 浅見委員】

ありがとうございます。ただ、私がお願いしているのは難しいことではありません。

私は本山駅で毎日乗降しています。到着直前になると、どちらのドアが開くか分かっているため事前にその側へ移動します。列車到着後に移動するとバランスを崩す危険があるためです。到着すると運転士が立ち上がり、何らかの操作を行い、その後にドアが開きます。その操作の際に「右側が開きます」「左側が開きます」と一言声を掛けることは難しいことではないと思います。

実際、高松駅ではワンマン列車の発車時に運転士が肉声で「まもなくドアが閉まります」と案内しています。であれば到着時にも「右側が開きます」と案内することは可能ではないでしょうか。これは特別な合理的配慮ではなく、ごく自然な案内だと思っています。2年間同じ要望を続けていますが、なぜ実現できないのかが分かりません。今回の回答を聞いても、その思いは変わりませんでした。

【藤澤分科会長】

鎌田千記理さんの Razomap について、田村委員、何か感じられたことなどございますでしょうか。

【田村委員】

鎌田さんのアプリについてですが、以前から障害の種類ごとに分散している情報を一つにまとめたアプリができないかという話をしていた中で中学生がこうしたアプリを考え、広く意見を求めていることに感銘を受けました。今後この取り組みをどのように引き継いでいくのか、次回の分科会の中でも進捗を報告していただきたいと思います。

また、四国各地では公共交通利用促進に向けた都市計画や交通戦略が策定されています。そうした情報を鎌田さんに提供し、検証してもらうのも有意義ではないでしょうか。オンライン参加の行政関係者の皆様にも、ぜひアプリに対する意見を寄せていただきたいと思います。

【藤澤分科会長】

笹岡委員も近い取組をされていると思いますが、ご意見等いかがでしょうか。

【笹岡委員】

観光の場面でも防災はどうなっていますか、と聞かれることが多くなっています。現在、防災士資格を取得し取り組みを進めています。観光や日常利用の場面でも、防災への対応は重要です。障害のある方が安心して利用できる環境づくりが必要だと考えています。

【藤澤分科会長】

先日の熊本地震もありましたが、柳澤先生いかがでしょうか。

【柳澤教授】

石川県の 1.5 次避難所を視察しましたが、一次避難所から次の避難先へ移れない方が多く、大規模避難所に長期間滞在する状況がありました。アリーナのような施設に数百人単位で集まり、1 か月から 1 か月半滞在すると、動けなくなり寝たきりになる方も出てきます。そのため、

次の避難先を早期に整備し、受け皿となる生活環境を整えることが重要です。

熊本についても派遣依頼があり、現地に入る可能性があります。避難所運営やリハビリテーション関係の活動に入ると思われます。多くの人が不自由していると思われていますが、状況を確認し、今後の取り組みに活かしたいと考えています。

【藤澤分科会長】

長尾委員、何かございますでしょうか。

【長尾委員】

先ほどのドア案内についてですが、私は大阪の JR や地下鉄を利用しますが、「次はどちらが開きます」と案内されています。ぜひ導入していただきたいと思います。障害のある方への配慮として重要です。

【藤澤分科会長】

ありがとうございました。ご意見等ございませんでしょうか。

それでは意見交換は以上とさせていただきます。

次に柳原副分科会長、一言お願いいたします。

【柳原副分科会長】

本日はありがとうございました。柳澤先生の車いす避難サポーター養成講座は非常に意義深い取り組みだと感じました。これまでも心のバリアフリー教育として、車いす体験や視覚障害体験、当事者のお話を聞く取り組みが行われてきました。そうした教育は障害への理解を深めるうえで大変重要です。しかし避難サポーター養成講座はさらに一歩進み、「自分が何をすればよいのか」「自分に何ができるのか」を考えさせる内容になっていると思います。障害者理解に加え、災害時支援という視点を組み合わせることで、子どもたちが自ら行動を考える教育ツールとして大変有効だと感じました。

また、バリアフリーマップなどの情報提供についても重要性を感じました。さまざまな情報が作られていますが、今後 AI 技術の発展により、障害当事者がどこで困ったかだけでなく、目的地までどのように行けばよいのかという情報も提供できるようになると考えます。障害者当事者が初めて訪れる場所へ一人で行く場合、どのルートであればバリアフリーで、一人で移動できるのかという情報があれば大きな助けになります。

今後、困りごとの情報に加えて移動方法の情報も蓄積し、機械学習などに活用できれば、障害のある方が目的地まで安全に移動するための支援につながるのではないかと思います。

【藤澤分科会長】

貴重な情報提供ありがとうございました。鎌田さんの取組はロボットの空間知の可視化そのものだと感じました。また柳澤教授の取組も暗黙知を可視化することで非常に重要だと感じました。

4. 閉会挨拶 【四国地方整備局 濱田事業調整官】

5. 閉会